

題名：「日本在住外国人の生活と言語的支援 – 難民支援の現場より –」

日時：2015年6月26日（金）16時35分～18時50分

会場：東京女子大学9103教室

講師：田中志穂氏（認定 NPO 法人 難民支援協会 広報部 コーディネーター）

<概要>

本企画では、難民支援の最前線で日々活動している田中氏をお招きした。冒頭で、田中氏は、「いままで一番で辛かったことは、何ですか？ 1分間、目を閉じて思い出してください」と問いかけた。1分経過後に、「今、皆さんは辛いことを思い出したかもしれませんが、そうしたことをすべて話さないと難民の認定を受けることができないのです」と説明があり、会場は息を呑んだ。それから世界の難民の状況、日本の受入状況について説明があった。2014年度、日本では5000名の難民申請者があったが認定者数がわずか11名しかいなかったこと、認定を受けるために膨大な資料とそれを作成するために何名ものスタッフが必要となること、日本の難民政策は管理の観点が強すぎるが、保護の観点をもう少し強調すべきであることなどが訴えられた。その後、難民支援協会の活動や学食で難民の家庭料理を提供し売上金の一部を難民支援に利用する Meal for Refugees などが紹介された。また、グループ活動を通じて、「日本や世界では難民に対するどのような政策、対応が必要であるか」に関し、学生が自らの意見や考えを発表する機会が提供された。

（松尾慎）

題名：「日本語教育初級クラスのモデル授業及び日本語学校で働くということ」

日時：2015年10月30日（金）16時35分～18時05分（第一部）

18時5分～18時45分（第二部）

会場：東京女子大学9103教室

講師：金子史朗氏（友国際文化学院教務主任）

<概要>

日本語学校で大学や専門学校に入学することを目指している留学生に対する日本語教育に長く携わっている金子氏をお迎えした。第一部では日本語の模擬授業、第二部では日本語学校で求められている人材に関する講演をお願いした。模擬授業においては、本

学学生を初級の日本語学習者に見立て、文型項目の導入、基本練習や簡単な応用練習の流れを見せていただいた。周到な準備と経験に裏付けられた授業展開を参加者一同、体験した。金子氏には2012年度から4年連続で模擬授業と講演をお願いしているが、何年か連続での参加者も多かった。また、第二部では、質疑応答を行い参加学生からいくつかの質問が出され活発なやり取りとなった。

(松尾慎)

題名：「言語イデオロギーと法廷通訳」

日時：2015年11月24日（金）14時55分～14時25分

会場：東京女子大学6112教室

講師：吉田理加氏（順天堂大学国際教養学部専任講師）

<概要>

多言語多文化化が進む日本社会で、言語の問題が社会の様々な場面で生じている。その一つである裁判の場でスペイン語の法廷通訳としても長年活躍していらっしゃる吉田先生をお迎えした。法廷では通訳は、「語られたことばを正確に、過不足無く訳す」ことが求められるが、異文化間において、「言語的に正確に」訳された「話者が語ったことの意味、意図」は、聞き手に理解されるのだろうか。言語に付随する表情や姿勢、仕草など非言語行動の意味は通訳されない。日本語日本文化の裁判官に全ての判断がゆだねられる法廷での事例を通して、多言語多文化の交差する場における重大な言語問題について、お話しいただいた。

(石井恵理子)